



校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です



鴻巣市立箕田小学校 学校だより
令和7年10月1日

児童数
男子 107名
女子 134名
合計 241名

〔学校教育目標〕 ～感動し、共に喜びあえる児童の育成～



スマホ2時間条例

～ルール作りを家族で話し合うきっかけに～

校長 清水 良江

ようやく秋らしい季節を感じるようになってきました。いつもなら夏のお盆の頃に出てくるミョウガも今年は9月過ぎてようやく見られるようになりました。夏の気温は野菜などの収穫にも影響を与えています。涼しくなり、子どもたちは休み時間ごとに校庭で走り回ったり、虫取りをしたりしています。暑さを心配することなく体を思い切り動かせるので、気持ちも前向きになります。

さて、9月に愛知県の豊明市において全国初の「スマホ2時間条例」が成立したと新聞等で話題になりました。これは「仕事や勉強時以外の自由時間でスマートフォンやゲーム機などの使用を1日2時間以内を目安とするよう住民に促す」というものです。条例というと、強制なのかと感ずるところですが、豊明市ではスマホなどの過剰使用防止を目的とし、罰則はありません。あくまでも目安ということです。「小学生以下の使用は午後9時まで」「中学生以上18歳未満は午後10時まで」など、使用時間の目安も示されました。ただし、家族や友達同士で楽しむゲームや仕事、学習などでの使用は該当行為には含まれず、施行後はその効果や市民の反応を定期的に検証するとのことで、賛否様々な反応が出ているようです。

日本の子どもは世界で一番眠れていないと言われるくらい、子ども達の睡眠の確保は大きな課題となっています。そこにスマホやタブレットの急激な普及により、SNSやゲーム、動画の視聴等で遅くまでブルーライトの光を浴び、夜の眠りが妨げられるようになりました。そのため睡眠時間の確保や過剰なスマホ等の使用の見直しはますます重要となっています。また、スマホを使用するようになってから子どもが犯罪に巻き込まれる事件も多くなっていることも否めませんので、ある程度の規制は何らかの形で必要なのかもしれません。実際にSNSを介して簡単に知らない人と知り合い誘拐されたり、共通の話題で盛り上がりそこから見えないSNS上での誹謗中傷に繋がったりする話も身近で耳にします。また小中学生の中では、ライン上での仲間外れや悪口の書き込みがたびたび話題になっています。子ども達がスマホをもつことにより便利になった半面、本当にこれまでなかったような様々な問題や事件が起こっているのが現状です。

海外でもSNS使用が規制されるほどの影響を与えるスマホの利用については、その約束事を家庭で十分に話し合う必要があります。自分自身でコントロールできなくなると、依存症にもなりかねません。そうならないためにも、私たち大人も一緒になって使用方法を見直していかなくては解決には結びつかないのだと思います。1日2時間以上、外で過ごす視力にもよいと言われています。家族で使用する共通の時間を決めるなど、何か思い切った決断も必要かもしれません。家族みんなが気持ちをスマホ以外に向けられるきっかけが作れるとよいです。

人を傷つける言葉「NGワード」の撲滅目指して！ ～箕田小学校での取組～

言葉の暴力につながる「人を傷つける言葉」を耳にすることがしばしばあります。言う側はあまり意識していないようですが、言われた側はとても傷つきます。こういった言葉をなくそうと、代表委員会では「NGワード撲滅」を目指して取り組んでいるところです。代表委員会の中で選んだ4つの言葉「お前」「バカ」「死ね（ハンドサイン含む）」「きもい」は、各クラスでもなくせるよう呼びかけているところですが、まだまだなくなることはありません。どうしたらなくせるのか、一人一人が本当に真剣に考えていく必要があります。毎日、誰もが笑顔で楽しく過ごせる箕田小であってほしいです。